

## 振分石：参詣道の分岐点

熊野三所大神社の境内には振分石と呼ばれる石柱が立っています。この石柱は、熊野古道の主要な参詣道のうち、中辺路、大辺路、伊勢路の三本が分岐する地点を示しています。

**中辺路**は、田辺から那智勝浦と新宮まで紀伊半島全域を東西に走り、熊野三山の全てを結んでいます。御幸道とも呼ばれるこの道は、中世には上皇をはじめとする貴族たちが利用しました。

**大辺路**も田辺と那智勝浦を結んでいますが、こちらは海岸沿いを通る遠回りの道です。難路ではあるものの、海の眺望は中辺路の山岳景観とはまた異なる趣があります。

**伊勢路**は伊勢神宮から南に延びており、途中で分岐してそれぞれ熊野速玉大社と熊野本宮大社に続きます。

## 道ばたの神

歴史的に、振分石は、道ばたの小さな祠に祀られた道祖神（土地の守り神）とそう変わらず、道ばたの神、境界の神として信仰されていました。

現在の振分石は、この場所に立つ2基目のものです。1358年に最初の振分石が立てられた際、300年ごとに交換するようという指示が残されました。この指示は1658年には忠実に守られましたが、歴史の保存についての考え方の変化により、1958年には2度目の交換は行われませんでした。